

2023 年度 初級課題②

Johann Wolfgang von Goethe: Heidenröslein (1771)

ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ「のぼら」(1771 年作)

Sah ein Knab' ein Röslein stehn, Röslein auf der Heiden, War so jung und morgenschön, Lief er schnell, es nah zu sehn, Sah's mit vielen Freuden. Röslein, Röslein, Röslein rot, Röslein auf der Heiden.	少年が荒地に 小さいばらを見つけた。 若々しく、みずみずしく咲いていた。 少年は近くで見ようと、駆け寄って、 夢中になって眺めた。 ばら、ばら、赤いばら、 荒地に咲く、かわいい野ばら。
Knabe sprach: Ich breche dich, Röslein auf der Heiden! Röslein sprach: Ich steche dich, Daß du ewig denkst an mich, Und ich will's nicht leiden. Röslein, Röslein, Röslein rot, Röslein auf der Heiden.	少年は言った。「お前を折ってやる、 荒地のばらよ。」 ばらは言った。「あなたをとげで刺してしまうわ。 いつまでも私を忘れないように。 それに、痛い目にはあいたくありません。」 ばら、ばら、赤いばら、 荒地に咲く、かわいい野ばら。
Und der wilde Knabe brach 's Röslein auf der Heiden; Röslein wehrte sich und stach, Half ihm doch kein Weh und Ach, Mußt' es eben leiden. Röslein, Röslein, Röslein rot, Röslein auf der Heiden.	そして粗暴な少年は、 荒地のばらを折ってしまった。 ばらはあらがってとげを刺したが、 泣いても嘆いても何にもならなかった。 つらい思いに耐えねばならなかった。 ばら、ばら、赤いばら、 荒地に咲く、かわいい野ばら。